

<参考文献:第2部>

○第1章

経済企画庁『経済白書』各年

経済企画庁(1995)「第5次版E P A世界経済モデル—基本分析と乗数構造—」『経済研究』139号、経済企画庁経済研究所

塩野谷祐一訳(1983)『ケインズ全集』第7巻 東洋経済新報社

総務庁(1995)『昭和55-60平成2年産業連関表』

山本拓(1988)『経済の時系列分析』創文社

○第2章

H.Branson and D.W.Buiter(1983)“Monetary and Fiscal Policy in Flexible Exchange Rates,” in J.S.Bhandari and B.H.Putnam eds,

ECONOMIC INTERDEPENDENCE AND FLEXIBLE EXCHANGE RATES , MIT Press
Dornbusch, (1976)“Exchange Rates Expectations and Monetary Policy.”

Journal of International Economics6,231-244

M,Kawai, (1985)“Exchange Rates ,the Current Account and Monetary-Fiscal Policy in the Short-Run and in The Long-Run,” Oxford Economic Papers,37,September,391-425

J.K.Kouri,(1976)“The Exchange Rate and The Balance of Payment in The Short-Run and in The Long-Run: A Monetary Approach,” Scandinavian Journal of Economics 78,

R.Mundell,(1963)”Capital Mobility and Stabilization Policy under Fixed and Flexible Exchange Rates,” Canadian Journal of Economics and Political Science 29,475-485

井堀俊宏(1995)『マクロ経済学』新世社

植田和男(1995)「為替レートの決定理論」『国際金融の現状』第2章 有斐閣

河合正弘(1994)『国際金融論』東京大学出版会

経済企画庁(1995)「第5次版E P A世界経済モデル—基本分析と乗数構造—」『経済研究』139号、経済企画庁経済研究所

山崎福寿、柳田辰雄(1983)「アセット・アプローチと経済政策の効果」『国際金融の理論』東京大学出版会

吉野直行・亀田啓悟(1997)「日本の財政支出乗数の変化に関する実証推計—アセットオープンマクロモデルを用いて」1997年度日本財政学会報告論文

○第3章

伊藤元重(1989)『ゼミナールミクロ経済入門』日本経済新聞社

河合正弘(1992)「円の国際化」伊藤隆敏編『国際金融の現状』第10章 有斐閣

日本貿易振興会『ジェトロ白書』各年版

本田敬吉(1992)「国際金融の歴史と制度」

伊藤隆敏編『国際金融の現状』第1章 有斐閣

三宅純一(1992)「金融構造の変化」貝塚啓明・池尾和人編『金融理論と制度改革』

第8章 有斐閣

吉川洋(1992)『日本経済とマクロ経済学』東洋経済新報社

吉野直行(1996)「金融自由化と銀行・企業行動及び金融政策」

野口悠紀雄編 『比較・日米マクロ経済政策』日本経済新聞社

○補章

塩野谷祐一訳(1983)『ケインズ全集』第7巻 東洋経済新報社

本資料は、建設政策研究センターにおける研究活動の成果を執筆者個人の見解としてとりまとめたものです。

本資料が皆様の業務の参考となれば幸いです。

公共投資の経済効果に関する実証研究

発行 1998年3月発行
〒100-0013 建設省建設政策研究センター
東京都千代田区霞が関3-1-1
中央合同庁舎第4号館
TEL (03) 3503-7681 (直通代表)
FAX (03) 3503-7684
